

## 「土砂災害を防止するためには」

福島県 矢吹町立三神小学校 6年 <sup>せきね けいた</sup> 関根 啓太

この夏、日本をおそった大雨で、各地で土砂災害が起こりました。山の近くにある家は土砂でいっぱいになっていました。山の木が道をふさいでしまって、車が通れなくなっていました。また、田んぼや畑の大事な野菜などが収穫できなくなってしまうなどの大きな被害もありました。

このようなニュースを見て、思ったことはたくさんあります。被害を防止するために、どうすればよいかということです。

一つ目は、山の周りにダムや堤防を作ることです。土砂を少しでも食い止めるためです。斜面にはワイヤーのあみを張ることで、流れてくる木や岩などを食い止める役になってくれると思います。

二つ目は、山の近くの家を、山からちょっとはなれた所や、高台に建てることです。土砂や水が、家の中に入らないようになります。しかも、家が高台にあるのなら、山の木がくずれていても、高い場所にあるため、木が流れて来ることはありません。

このようなことをすれば、いい方向に向かうと思います。でも、ぼくが考えたことが本当にそうなのかと疑問に思い、実際に山道を見に行きました。道のわきの斜面には、ワイヤーがあり、大きなかべのようなものもあって、がけくずれの起こりそうな所には、看板が立っていました。

でも、どうしてこんなに対策をとった場所でも、被害が出てしまうのだろうかと思いました。ぼくは、例えばもっと太いワイヤーはないのかと思いました。太いワイヤーだと、もっと力を発揮し、土砂を防ぐのではないかと思いました。

ある日の夜、ニュースを見ました。そうしたら、住民が

「これは、今までに体験したことのない大雨だ。」

と言っていました。これを聞いてぼくは、

「みんな体験したことがないような雨が降るんだ。」

と思いながら、ニュースを見ていました。そんな中、雨の中田んぼを見に行った人が、川に流されてしまうというニュースも見ました。

「うちも農業だから、気をつけよう。」

と思いました。お父さんは、

「こんな時、田んぼに行かないのに。」

と言っていました。

また、川の近くの道路は、流れる水のはたらきでけずられて、道ではなくなっていました。それに、川の水が多すぎるためマンホールの水が行き場を失って、あふれ出ていました。水が家の中にもたまっていました。そうすると、木がくさり、家がたおれてしまいます。だから、住民は入口に土のうを置いて、水が入らない工夫をしていました。家の土台を高くする必要を、ここでも感じました。

ぼくは、この夏の間、被害にあうことはありませんでした。一方で、各地では、土砂の被害や洪水の被害が多くありました。このように、いろいろな所で災害が起こっています。このようにならないようにするには、いろいろな対策が必要です。でも、一人ひとりが自分の命は自分で守ること、いろいろな被害にあってもみんな協力することがとても大切だと思いました。